

平成13年度地域連携支援ソフト事業

北松浦半島体験型観光連携事業

(海洋クラスタ - 都市構想)

平成14年 2月

**平成13年度地域連携支援ソフト事業
北松浦半島体験型観光連携事業（海洋クラスター都市構想）**

目 次

1.本報告書の概要	1
(1)北松浦半島体験型観光連携事業の概要	1
(2)本年度事業内容	1
(3)事業成果及び今後の展望	2
2.北松浦半島体験型観光連携事業の概要	4
体験型観光への取組方針	4
海洋クラスター都市構想とは	5
3.本年度事業内容	7
北松浦半島地域がもつ地域性 地域資源	7
担い手研究会	8
現地研修	11
県内外先進地視察研修	12
観光モニター招致	16
シンポジウムの開催	19
4.事業成果及び今後の展望	23
事業成果	23
今後の展望	23
(資料編)	25
海洋クラスター都市構想実現推進協議会のついて	25
各クラスターの地域特性等について	25
北松浦半島体験型観光関係者リスト	28
北松浦半島体験型観光連携事業による観光メニュー(試作)について	31

平成13年度地域連携支援ソフト事業 北松浦半島体験型観光連携事業（海洋クラスター都市構想）

1.本報告書の概要

(1)北松浦半島体験型観光連携事業の概要

長崎県北部および佐賀県西部地域における「海洋クラスター都市構想」実現化の手法として、(1) 新産業創出によるベンチャー企業の育成」と(2) 広域観光の活性化による交流人口の拡大」の2つの手法が掲げられている。

本事業はこの2番目の柱「広域観光の活性化による交流人口の拡大」を目指して、地域資源を活用し、新しい体験プログラムにより人と人とを結びつける新しい観光の流れをつくり、交流人口を増やすとともに新たな雇用の創出を図るものである。

体験型観光への取組方針

- 体験型観光の実践に必要な人材を育成する。
- ・癒し』の要素を取り入れるなど中長期滞在型の体験型観光のメニューづくりを行う。

海洋クラスター都市構想とは

海洋クラスター都市構想とは

長崎県北部の北松浦半島と佐賀県西部の地域的特性を活かした、民間主導の新たな産業育成、地域づくりの構想

海洋クラスター都市構想提唱の背景

- ・当該地域では、基幹産業となっていた石炭産業が衰退し、その結果雇用機会を確保し、人口流出を抑えるための新しい産業おこしの必要性が増大した。
 - ・当該地域は、海という共通の自然環境を有し、また歴史的・文化的にも共通点が多い地域である。
- 以上のような背景のもとで、当該4市16町1村をひとつの広域都市圏として捉える構想が生まれた。

(2)本年度事業内容

本年度事業は下記の5つの事業により構成されているが、～ では体験プログラムを実施する「担い手」を養成すること、及び～ では体験型観光の地域での認知という2つの大きな目的をもっている。

北松浦半島地域がもつ地域性・地域資源

北松浦半島地域は、平戸・生月地域一帯に広がる西海国立公園や日本水軍「松浦党」の城跡など、豊かな自然や歴史・文化遺産にめぐまれている。また、都市部では少なくなった地域コミュニティも残っている。これらの資源をもとに体験型観光を展開し、新たな地域資源の発掘や人材の育成を行う。

心と体のバランス（健康）を取り戻す中長期滞在可能地域としての位置づけ

担い手研究会

北松浦半島地域における体験型観光の担い手の育成のために、体験型観光の実践や体験プログラムの作成について専門家などを招聘し、地域にふさわしい体験型観光のノウハウを学ぶ。

現地研修

既存の施設や史跡などを専門家とともに回りながら、施設運営のあり方を学ぶ。

県内外先進地視察研修

県内外の体験型観光の先進地を視察・研修し、地域資源の活用の仕方や体験プログラムの指導にあたる人々の心構えなど、体験型観光の実践方法を学ぶ。

観光モニター招致

担い手研究会及び県内外視察研修で学んだ体験型観光のポイントを踏まえ、独自に体験プログラムを作成、観光モニターを招致する。そしてその結果を踏まえ、今後取り組むべき課題などを抽出する。

シンポジウムの開催

担い手研究会や県内外の先進地視察、および観光モニターの実施など各事業の集大成として、また地域における体験型観光の意義や効果などについてシンポジウムを開催し、北松浦半島地域住民に体験型観光が地域活性化に役立つことを広く認識してもらう。

(3)事業成果及び今後の展望

事業成果

北松浦半島全体の住民に、今回の事業を通じて下記の3点を認識していただいた。

1. 体験型観光とはどういったものか。また、その魅力について。

2. 体験型観光が地域活性化につながるということ。
3. 体験型観光を実施するには、「人」の育成が重要であること。

体験型観光のコーディネーター、インストラクターの養成が不可欠である。

地域に根ざした資源を観光資源として再構築していくことは、地域住民にとっても、地元の魅力の再発見につながり、その魅力を他の地域から訪れる人々に誇りと自信をもって伝えることで、自らの意識も高まってくることも確認できた。したがって、体験型観光による交流人口の増加は経済的な効果にとどまらず、「真の地域活性化」につながるのではないかと期待される。

今後の展望

本事業は北松浦半島地域における地域活性化に体験型観光が有効であると認知していただく契機となったが、これからの展開をより確固たるものにするためには、観光メニューの充実や各観光拠点と旅行者をコーディネートする専門的な組織の構築など諸課題を解決するとともに、地元行政、関係機関等との連携を強化し取り組む必要がある。

2. 北松浦半島体験型観光連携事業の概要

長崎県および佐賀県にまたがる西九州北部地域は、産業構造の変化などを背景に極めて厳しい状況にある。しかし、この北松浦半島地域は、経済的・社会的・歴史的に一体として存在し、固有の文化を育んできている。

この広域地域での都市間の有機的結合の可能性が強いという特性(クラスターの特性)を活かして、地域活性化を図ろうとするのが「海洋クラスター都市構想」である。

「海洋クラスター都市構想」実現化の手法として、(1)「新産業創出によるベンチャー企業の育成」と(2)「広域観光の活性化による交流人口の拡大」の2つの手法が掲げられている。

本事業はこの2番目の柱「広域観光の活性化による交流人口の拡大」を目指して、地域資源を活かし、新しい体験プログラムにより人と人とを結びつける新しい観光の流れをつくり、交流人口を増やすというものである。

体験型観光への取組方針

国土交通省の地域連携支援ソフト事業*1に基づき、北松浦半島地域における体験型観光の実現のために、以下のような取組方針を掲げる。

体験型観光の実践に必要な人材を育成する

体験型観光を実践することにより、交流人口の増加が期待できることを地域住民が認識すること、また実際に体験プログラムを作成するに当たり、核となるインストラクターを養成するなど、体験型観光の実践に必要な人材を育成する。

癒しの要素を取り入れるなど中長期滞在型の体験型観光のメニューづくりを行う

取り組む広域観光を単なる周遊型の「見る」観光ではなく、地域の歴史的・人的特性等を、他地域から訪れる人々に十分アピールできる「体験型」観光を構築する。また、平戸クラスターの中核的研究機関であるNPO法人「日本ヒーリング科学研究所」の有する「心と体のいやし」に関する研究を参考とし、「癒し」の要素を取り入れるなど、中長期滞在型の体験型観光のメニューづくりを目指すこととした。

*1. 地域連携支援ソフト事業

国土交通省では、全国総合開発計画「21世紀の国土のグランドデザイン」に掲げられている地域連携を効果的に推進するため、地域の主体的な取り組みとしての、都道府県やブロックを越えた地域連携の先駆的なソフト事業について、支援措置を行う。

海洋クラスター都市構想とは



海洋クラスター都市構想とは

平成 7年に民間から提唱された「海洋クラスター*1 都市構想」は、国が進める「地域の参加と連携」のモデルケースとして、新しい全国総合開発計画「21世紀の国土のグランドデザイン」や九州地方開発促進計画(第5次)に取り上げられた。

この構想は、経済的・社会的・歴史的に一体性が強い、長崎県北部の北松浦半島と佐賀県西部の地域的特性を活かした、民間主導の新たな産業育成、地域づくりの構想で、将来にわたる県北地域振興の柱となる可能性があるものと期待が寄せられている。

海洋クラスター都市構想提唱の背景

海洋クラスター都市構想の対象となる長崎県北部・佐賀県西部の当地域では、国策による石炭から石油へのエネルギー需要の転換に伴い石炭産業が衰退した。その結果、地域において雇用機会を確保し、人口流出を抑えるための新しい産業おこしの必要性が増大した。

当該地域は、海という共通の自然環境を有し、また歴史的・文化的にも共通点が多い地域である。

以上のような背景のもとで、当該 4市16町 1村をひとつの広域都市圏として捉える構想が長崎経済同友会佐世保地区で生まれ、経済界と地域大学の連携が核となって平成 7年12月、「海洋クラスター都市構想実現推進協議会」が発足し、順次松浦、伊万里、北松浦、平戸、佐世保の地区クラスターが設立された。

* 1. クラスター

「集団」「房」を意味する言葉で、地域やグループなどある集合体を「1つの単位(房)」と捉え、複数の集合体を相互に関連づけて配置する、都市計画などで用いられる手法の名称。

海洋クラスター都市構想参加市町村

長崎県

平戸市、松浦市、佐世保市、生月町、田平町、福島町、鷹島町、江迎町、鹿町町、小佐々町、佐々町、吉井町、世知原町、東彼杵町、川棚町、波佐見町、大島村

佐賀県

伊万里市、肥前町、有田町、西有田町

海洋クラスター都市構想の基本的な考え方

4市16町1村からなる長崎県北部及び佐賀県西部地域を6つのクラスター群(クラスター:房、群)からなる広域都市圏として捉える。

各々のクラスターでは、その地域の特性を活かした地域活性化構想を提案し、地域連携と役割分担を基本として、構想の実現化をはかる。

構想の実現化にあたっては、民が提案し、主導して行政の支援を得る。即ち、民産官学の連携によって推進することを基本とする。

地域活性化構想は、新しい産業をおこして、雇用の増大に寄与し、さらにまた広域観光によって地域の交流人口拡大を目指す。

3. 本年度事業内容

本年度事業は、北松浦半島という広域における「観光の担い手の育成」を目的として、地域性・地域資源を活用した観光への取り組みを目指し、体験型観光の実践に取り組むこととした。

北松浦半島地域がもつ地域性・地域資源

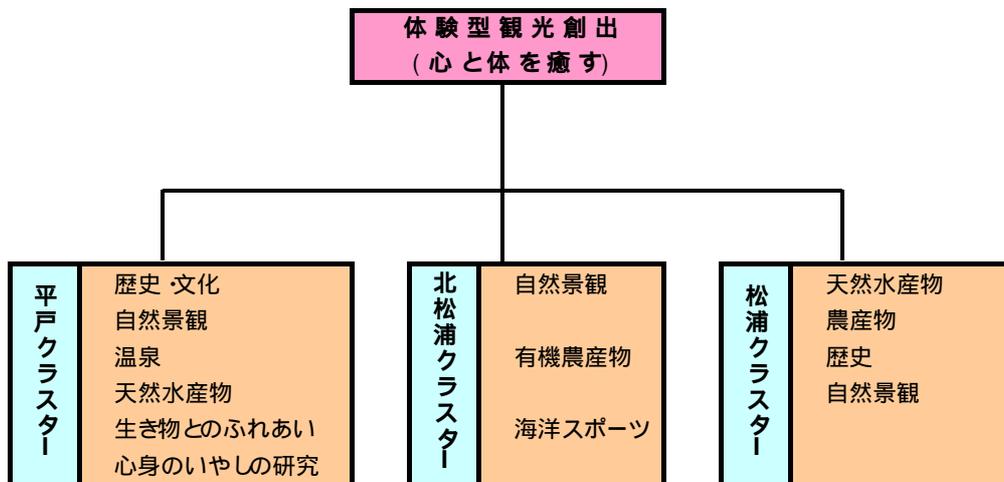
体験型観光を推進するにあたり、北松浦半島地域内の各クラスターの地域性・地域資源を再確認し、この地域にふさわしい体験型観光の方向性を検討した。

平戸、北松浦、松浦クラスター地域は、昭和30年代をピークに、現在は人口が半減している状況である。これは、炭坑の閉山、農林水産業の不振等に加え、進学先、地元企業等への就職先が少ないために、若年人口が県外に流出していることが主な要因である。このため、地域においては高齢化が進み、経済的な活力も失われつつある。

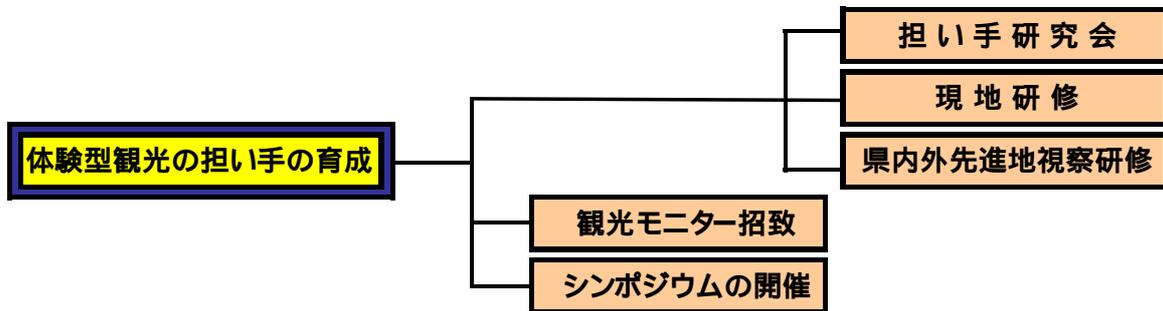
一方で、この地域は平戸・生月地域一帯に広がる西海国立公園や日本水軍「松浦党」の城跡など、豊かな自然や歴史・文化遺産に恵まれている。また、都市部では少なくなった地域コミュニティが残っているところである。つまり従来の観光施設に加え、体験型観光のプログラムを提供するにふさわしい自然や農村集落が存在する地域である。

これらの資源をもとに体験型観光を実践し、新たな地域資源の発掘や人材の育成に努める。そしてこの地域を、都市住民が自然や地域住民と交流することにより、**心と体のバランス(健康)を取り戻す中長期滞在可能地域**として位置づけていくことで、交流人口の増加による地域経済の活性化が図られるものとする。

(各クラスターの地域特性については、巻末資料25頁参照)



本年度事業内容



体験型観光の意義やノウハウなどを学ぶ「**担い手研究会**」の開催

既存の施設や史跡などを専門家とともに回りながら、施設運営のあり方を学ぶ「**現地研修**」の実施

体験型観光プログラムを先行して実践している地域への「**県内外先進地視察研修**」の実施

研究会や視察などで学んだことの総括として、実際に自らの企画により「**観光モニター招致**」

北松浦半島地域における体験型観光の実現可能性について、担い手だけにとどまらず、広く地域住民にも認識してもらうための、「**シンポジウムの開催**」

担い手研究会

北松浦半島地域において体験型観光に取り組もうとする担い手の育成のために、体験型観光の実践や体験プログラムの作成について専門家などを招聘し、地域にふさわしい体験型観光のノウハウや実施上のポイントを学んだ。

第1回研究会

日時 :平成13年11月10日

場所 :北松浦郡田平町・田平町町民センター

講師および講演内容

体験教育企画 代表 藤澤 安良 氏

学習指導要領の見直しに伴い、「総合学習」の実践の場として近年修学旅行生が増加している「体験型観光」について、何故求められているのか、その理由と推進にあた

ってのポイントについて講演した。また講師自ら企画・運営にあっている長野県・南信州観光公社での成功事例をもとに、体験型観光のあり方やプログラムの作り方について解説した。

株式会社 芸術造形研究所 取締役 西田 清子 氏

昨今求められている「癒し」について、その背景と、講師が自ら携わっている芸術を通じたヒーリング(癒し)の手法・アートセラピーの実践とその効果について解説した。

第2回研究会

日時：平成13年12月7日

場所：北松浦郡田平町・プチホテルたびらんど(旧・国民宿舎たびら荘)

講師および講演内容

体験教育企画 代表 藤澤 安良 氏

第1回研究会に引き続き、「体験型観光」の推進のためのポイントについて講演した。また新潟県で行われている体験型観光の事例を紹介しながら、体験者がプログラムの主人公であること、大自然の厳しさ、偉大さなど「本物の体験」をさせること、またインストラクター自身も体験者と交流を深めていく中で、学び成長するといった、「人が変わる」ことの重要性を強調した。

ビデオをもとに「体験型観光」の

ノウハウを学ぶ

講 師

体験教育企画 代表 藤澤 安良 氏



株式会社 脳機能研究所 代表取締役社長 武者 利光 氏

「『いやし』を測る」をテーマに、昨今「癒し」が求められている事情を踏まえ、同氏が株式会社 脳機能研究所で行っている脳波測定研究をもとに、「癒し」の状態について科学的に検証し、脳機能の活性化には「癒し」が必要であることを実証、解説した。

花のアトリエ 代表 木村 三重子 氏

「花」にまつわる地域おこしの事例等を紹介し、「花」の重要性、「癒し」の効果について説明。また、本観光連携事業における「花」の活用方法として、「癒し」をテーマとしたフラワーエッセンスの製作に取り組むなど、北松浦半島地域に生息する花卉の活用と地域おこしについて講演した。

第3回研究会

日時 :平成13年12月20日

場所 北松浦郡吉井町 吉井活性化センター(ソレイユ吉井)

講師および講演内容

長崎県観光連盟 新商品開発室 室長 相原 勝義 氏

「体験型観光の全国の動向と今後の課題」

全国的な広がりを見せる「体験型観光」への取組の動きに対し、何故注目されているのか、社会的なニーズと観光パターンの変化などについて講演した。また、修学旅行生向けに企画された体験型観光、いわゆる体験学習プログラムについて、その取組方や課題について述べるとともに、先行事例として長野県が修学旅行生の誘致を進めている概況について解説した。

長崎国際大学 人間社会学部 国際観光学科 教授 片岡 力 氏

観光における広域連携について、そうした取組みに至った社会的背景と、その連携方法について講演した。また個人の観光形態の変化を踏まえながら、求められる体験型観光の類型について解説した。



担い手研究会 熱心に聞き入る担い手の方々

現 地 研 修

第 1回現地指導

日時 :平成13年11月10日

参加者 10名

指導者 :体験教育企画 代表 藤澤 安良 氏

訪問先 :平戸市 地元農産品販売所 「やすまんや」

平戸市周辺など地元のためだけでなく、観光客や周辺地域からの客を呼び込むためのポイントについて研修を行った。

第 2回研究会

日時 :平成13年12月 7日

参加者 10名

指導者 :体験教育企画 代表 藤澤 安良 氏

訪問先 :たびら昆虫自然園

田平町 地元農産品販売所 「瀬戸の寄り道」

道の駅 「昆虫の里たびら」

田平教会

北松浦郡田平町において主な施設を見学し、自然や歴史など地域の魅力をいかにPRすればよいのか、その方法について研修を行った。

県内外先進地視察研修

体験型観光は、単に体験プログラムを設定し、体験してもらえばよいといった単純なものではない。体験者に感動を与えるためには特に体験プログラムの内容や体験の指導を行うインストラクターの役割は大きく、体験型観光先進地で体験型プログラムの内容やインストラクターの果たしている役割を確認する必要がある。

県内外の体験型観光の先進地を視察し、地域資源の活用の仕方や体験プログラムの指導にあたる人々の心構えなど、体験型観光の実践方法を学ぶことを目的として実施した。

県外先進事例視察研修

近年新たな修学旅行先として注目を集めている長野県飯田市を訪れ、体験型観光のプログラム内容の作り方や取り組み方などを学んだ。

日時 :平成13年11月27日～29日

場所 :長野県飯田市(南信州)

【視察行程および体験内容】

千代ごんべえ邑

飯田市の山中にある集落「千代」の伝統的な農家(昭和30年当時)を体験できる施設。

(体験メニュー)

情報交換会(農山村体験プログラムの内容と、農村民泊での都市や修学旅行生などとの交流の状況)

- ・炭焼き体験 藁細工製作体験



千代ごんべえ邑」にて
伝統的な食器「箱膳」により、郷土料理を楽しむ

日本棚田百選よこね田んぼ

農業体験用に使われ、日本棚田百選に選ばれた「よこね田んぼ」を視察

下久堅柿野沢公民館センター

平成2年、柿野沢の集落(72戸)の寄り合いのために作られた施設で、主に農家の女性による地域活動が中心となっている。

(体験メニュー)

・長野県南部地方(飯田)を中心に郷土食、伝統食として来客や祝催事に必ず食されていた「五平餅」作り体験

下久堅柿野沢公民館センターにて
郷土食「五平餅」づくり

地元婦人部の女性の指導のもと
自分達で「作る」楽しみを味わう



天竜川ラフティング

(体験メニュー)

・南信州を流れる天竜川(行程12km)をおよそ3時間かけて下る、自然体験プログラム。

日本トレッキング 乗馬体験

単に乗馬だけでなく、馬との交流を念頭に置いた教育プログラムを持つトレッキングクラブ。日本におけるトレッキングの発祥の地。

(体験メニュー)

- ・ 乗馬体験



日本トレッキングにて

乗馬の前に、馬の特性やコミュニケーションの
取り方などを学ぶ

(株)南信州観光公社

南信州における体験型観光のプログラム作成や旅行のコーディネートなどを行う会社を
訪問、情報交換を実施。

山都飯田水引工芸

日本全国のおよそ8割を占める水引の工芸館を視察。水引工芸の実演や歴史などを
解説した資料館を設けており、また飯田市の特産品も併せて販売している。

県内先進事例視察

長崎県内において先行して体験型の施設の整備、プログラムの作成を行っている地域を訪問
し、地域資源を如何に活用するか、その手法を学んだ。

日時 :平成13年12月20日 AM10 :00 ~ PM 3 :30

場所 :西彼杵郡西海町

みかんどーム

都市との交流促進を目的として、地場産品の食材を生かした蕎麦やパンなどの製作体
験の場、または地域情報発信の場。

(体験メニュー)

蕎麦打ち体験

所要時間 1時間程度で、そば粉を水でとく作業から蕎麦を打ち、こね、切るまで一連の
作業を体験する。



みかんドームにて

西海町役場の職員を招き、西海町での農村体験プログラムの内容などについて、説明を受ける

蕎麦打ち体験(みかんドーム内)

そば粉の状態から始め、蕎麦が出来るまでの一連の作業を体験できる



特産品直売所「よかところ」

西海町で取れるみかんや野菜といった農産物など特産品の直売所。

伊佐の浦公園

地元・西海町の旬の食材を活かした薬膳料理を提供している。

伊佐の浦公園周辺見学

家族連れなどが宿泊できるコテージや散策コースなど、自然とのふれあいが楽しめる自然公園。

伊佐の浦体験交流センター

(体験メニュー)

竹炭作りの見学およびクリスマス用のリース作り

観光モニター招致

担い手研究会および県内外視察で学んだ体験型観光のポイントを踏まえ、北松浦半島地域における地域資源などを活用した、体験プログラムを独自に作成した。また体験型観光をより実践的なものにするために観光モニターを東京、大阪、福岡の都市圏から招致し、モニターツアーを実施した。ここで得た結果を踏まえ、北松浦半島地域における体験型観光を成功させるためには今後どのような取り組みが必要なのか、問題点などを抽出する。

平戸「生月島いやしの旅」モニター旅行

日時 :平成14年 2月 4日 ~ 7日 3泊4日

場所 :平戸市および生月島

参加人員 :東京、大阪、福岡地区より計10名(男性 1名、女性 9名)

2月4日

- 日本ヒーリング科学研究所におけるヒーリング体験 -

モニター参加者に対し、問診などを通じ、心身の状態に応じたヒーリングメニューを作成し、研究所内の施設を活用したヒーリング体験を実施した。

○脳波、血圧等測定(事前測定)

○ヒーリング体験

・ヒーリングシェイプアップ...シェイプアップと過度なストレスの軽減

・バランスセラピー ...筋肉バランスの調整と過度なストレスの軽減

・ミュージックセラピー ...音楽鑑賞を通じた過度なストレスの軽減

・バッチフラワーレメディ ...花のエッセンスの処方による過度なストレスの軽減

2月5日

- 捕鯨とキリシタンの島 生月島体験 -

○生月島博物館「しまの館」

地元インストラクターによる「捕鯨の歴史」案内

○キリシタン殉教地、教会めぐり

地元インストラクターによる案内



乗馬体験(平戸 シービューランチ)

陽の光を浴びながら、千里が浜を馬で駆ける
爽快感を味わう

陶芸体験(平戸 紙漉きの里)

思い思いのデザインで、さまざまな作品の
創作に取り組む



2月6日

ヒーリング体験 - 平戸市内 -

- 千里が浜で乗馬体験
- 明の川内地区 旧平戸藩別邸 梅ヶ谷津偕楽園 見学
- 山中地区 紙漉きの里にて蕎麦打ち、陶芸体験
- 志々伎地区 旧平戸藩御用酒蔵元 福田酒造 工場見学および試飲
- 希望のヒーリング体験
 - ・ヒーリングシェイプアップ
 - ・バランスセラピー
 - ・ミュージックセラピー
 - ・バッチフラワーレメディ

2月7日

- 日本ヒーリング科学研究所における旅行による「癒し」状態の検証 -
- 脳波、血圧等測定(事後測定)
- 松浦資料博物館見学



脳波、血圧等測定風景

日本ヒーリング科学研究所にて、入所前と後での
血圧状態やストレス状態などの検査を受ける

体験型観光 平戸 生月島いやしの旅「観光モニター 脳波及び、SRS - 18解析結果報告

脳波計測法

日本ヒーリング科学研究所所長である武者利光氏が提唱している脳波測定技術によれば、人間の感性は、脳波に複雑な信号として表れる。その中から、複数の基準となるような感性要素、つまり Anger(怒り/ストレス)、Joy(喜び、達成感)、Sadness(悲しみ、落ち込み)、Relax(リラックス)に対応する脳波の特徴パターンを抽出し、そのレベルを時間の経過と共に表示し、リラックスの状態などを判定する。

今回の体験プログラムの実施の結果、体験者(被験者)10名のうち7名にストレス値の減少がみられた。又、リラクゼーション効果の1つとしてJoy(喜び、達成感)値の上昇や、Sadness(悲しみ、落ち込み)値の減少をも含めると約8割～9割の体験者に有意義な結果がみられた。

Stress Response Scale- 18 (SRS - 18)

SRS - 18とは、心理的ストレス反応を評価する尺度の事である。検査時の感情や行動に関する18項目それぞれの合計得点を求める事によって、心理的ストレス反応の3つの側面(抑うつ不安、不機嫌、怒り、無気力)を見ることができる。

今回の体験プログラムの実施の結果、心理的ストレス反応の3つの側面の合計点から推測すると、約7割の体験者に有意義なリラクゼーション効果がみられた。

シンポジウムの開催

担い手研究会や県内外の先進地視察、および観光モニターの実施など各事業の集大成として、また地域における体験型観光の意義や効果などについて広く認識してもらうために、北松浦半島地域の住民に対し、シンポジウムを開催した。

テーマ 北松浦半島体験型観光連携シンポジウム

郷土の特性を生かした新たな交流人口の拡大をめざして」

日時 :平成14年 2月22日 午後 1時30分～ 5時

場所 :平戸文化センター

参加人員 250名

基調講演

「民・産・官・学連携の基本的な考え方」

小倉 理一 氏(海洋クラスター都市構想実現推進協議会 副会長)

<経済・社会的欲求の変化>

物質や金銭的な豊かさの追及してきた時代 精神的な豊かさを求める時代へ...「人間いのち環境」といったものが見直されている。

北松浦半島の歴史、文化、地域資源...ヒーリング、人を癒すものが多い。

こうした資源を活用し、民間が主導となって、産・官に働きかけ、こうした連携をもとに作られた学術研究機関(日本ヒーリング科学研究所)が加わり、一体となって地域振興を進めていくことが求められる。

人は、人と交流することによって癒されるが、また大きなストレスを生むこともある。そのため、地域がどのようなもてなしをするかが課題となる。

「体験型観光のあり方」

藤澤 安良 氏(体験教育企画 代表)

体験型観光は、人と自然を売り物とした「本物体験」である。

本物体験をさせるためには「お客が主人公」となり、1回では完結しない体験をさせることがポイントである。

体験者だけでなく、インストラクター自身が人と接することによって学び、互いに感動しあい、高めあうことができる仕組みが必要である。



パネルディスカッション

モニター参加者、先進地、行政など様々な方面からパネリストを招聘、活発な意見が交わされた

パネルディスカッション

テーマ「体験型観光と地域振興」

コーディネーター

猪山 勝利 氏(長崎大学教育学部教授)

パネリスト

高橋 洋一 氏(国土交通省国土計画曲特別調整課長)

吉山 康幸 氏(松浦市長)

宮内 博司 氏(柿野沢農家組合)

西澤 正隆 氏(たびら昆虫自然公園園長)

竹内 玲子 氏(「平戸 生月島癒しのたび」モニターツアー参加者)

ディスカッション内容

- 1.体験型観光とはどういったものか
- 2.体験型観光は地域に役立つのか
- 3.体験型観光を実現するポイントは何か

パネルディスカッションでの意見内容

1.体験型観光とはどういったものか

体験者...体験プログラムを通じて自分自身の再発見ができた。普段であれば躊躇するようなことでも「やってみよう」という挑戦する気持ちが湧いてきた。できなかったことができるようになる感動があった。そうした経験が味わえるところが体験型観光の魅力だと思う

先進地... 地元の PR や地場産品の販売などについては、**地域を守る**手段として、地域おこしとして取り組んだ。体験型観光を実践し交流を通じて人から感謝の言葉を貰うこと、人とのふれあいが励みとなり自信となった。体験プログラムを実践する中で子供達と会話できることに喜びを感じるとともに、子供との交流を通じて子供が成長する姿が嬉しい。

行政... 田舎では人口が減少する中、いかにして地域を活性化させるかが課題となる。その解決策として交流人口の増加が上げられているが、体験型観光に取り組むことにより、地域にはどんな資源があるか見つめなおし、**地域の経済的・社会的自立**をめざす契機となる。

まとめ

体験型観光は、従来の周遊型の観光にはない新しい魅力を持つ。

体験型観光は、体験する人に感動を与え、人を変えていくという側面を持つ。プログラムの体験が人間関係にも影響を及ぼすことから、「家族づくり」にも役立つのではないか。

体験型観光には名所旧跡が不必要なため、体験型観光のプログラムの内容次第では旧来型の観光地との競争が可能となるのではないか。



シンポジウム会場

地域の体験型観光の担い手となる方々を中心に多くの来場者を迎え、盛況であった

2. 体験型観光は地域に役立つのか

行政... ・米国の事例を見ても、長期滞在型の観光が主流になっており、地域振興にも役立っているようだ。

松浦市では、体験型観光に取り組んでいるところで、まだ実績が出ているわけではないが、毎月 2 千人来るだけで、年間入込客数は当市の人口を上回る。地域活力の創造につながることを期待している。

先進地... 体験型観光に取り組んでいるが、全くやらないのでは地域活性化に雲

泥の差があると感じている。地域には固有の文化や伝統といったものがあるが、体験プログラムの策定・提供にはそうした伝統の継承していく必要がある。そうした地域おこしを通して**地域コミュニケーションを活発にすることができた。**

・会場では女性の姿が少ないが、飯田市では女性の活躍が体験型観光を支え、地域活性化にもつながっているように思う。飯田市では、女性が働きやすい環境づくりを行っている。

まとめ

飯田市の事例や海外の事例をみても、体験型観光は中長期滞在の交流人口を増やす効果があり、地域活性化に役立つことは間違いない。

体験型観光を支える人、特に女性の役割が重要であるが、地域の人々が企画や運営に取り組むことが、地域の見直しにもつながり、地域活性にもつながってくる。

3.体験型観光を実現するポイントは何か

体験者...景色一つとっても、例えそれが由緒あるものであっても歴史解説など説明がなければ単なる景色として流れてしまう。しかし景色にどんな歴史があるのかなど解説員の説明を受けると、その風景には、きちんとしたドラマが見えてくる。このように、体験型観光には、一緒に体験できる、感動を分かち合える**インストラクター**が必要である。

先進地...南信州 柿野沢では農業をやっているだけで、特別なことをしているわけではない。しかし修学旅行で農村民泊する生徒とは旅行が終わった後も文通をするなど交流が続いており、こうした交流が続いていることが励みになっている。またそのことが自分達のしていることに対する自信へとつながっている。つまり体験型観光の実現には、まず自分達がしていることに誇りを持つことが大事である。また地域をPRする**インストラクター**とともに、柿野沢での指導にあたっていただいた藤澤氏のような、地域の人々と一緒に考えてくれる**コーディネーター**が必要だと思う。

行政...地元において地域をPRする人材を育成することが大事なことは言うまでもないが、それに加えてそれぞれの体験プログラムをどのように束ねて、どこにうまく情報を流すのかなど旅行のコーディネートなど、地域を**プロデュースできる人材**が必要である。

まとめ

地域を愛し活性化させたいという意志をもち、これを束ねる求心力のある人物、またどうやったら体験にきた観光客に「感動」を与えられるか、本気で考え、取り組む人物が必要である。体験型観光の実現化には、最後は「人」にかかっている。

4. 事業成果及び今後の展望

(1) 事業成果

従来型の観光は周遊型観光、すなわちバスを連ねて史跡めぐりをするといったものが主流であったが、観光客の嗜好が「参加して楽しむ、感動する。」「人生体験の一部として旅を捉える。」と変化してきており、体験型観光はその嗜好に対応できる手法であることは間違いないものと考ええる。

今回の事業は、体験型観光の担い手育成を中心に、実地指導を含む3回の研究会を実施した。また、体験型観光の先進地である長野県飯田市の南信州観光公社での見学および体験や、長崎県内で体験型観光に取り組んでいる西海町での見学および体験を行い、体験型観光とはどういったものか、また、実施上のポイントなどが確認できた。

また、実験的におこなったモニターツアー「平戸・生月島いやしの旅」では、体験プログラムへの参加者の反応もよく、体験型観光を実施できるという自信にもつながったものと考ええる。

最後に行ったシンポジウムは、こうした担い手育成や、モニターツアーの実績をもとに開催したが、北松浦半島全体の住民に下記の3点を認識していただいた。

1. 体験型観光とはどういったものか。また、その魅力について。
2. 体験型観光が地域活性化につながるということ。
3. 体験型観光を実施するには、「人」の育成が重要であること。

体験型観光のコーディネーター、インストラクターの養成が不可欠である。

また、地域に根ざした資源を観光資源として再構築していくことは、地域住民にとっても、地元の魅力の再発見につながり、その魅力を他の地域から訪れる人々に誇りと自信をもって伝えることで、自らの意識も高まってくることも確認できた。したがって、体験型観光による交流人口の増加は経済的な効果にとどまらず、「真の地域活性化」につながるのではないかと期待される。

(2) 今後の展望

本事業は、北松浦半島における体験型観光による地域連携の契機となったが、これからの展開をより確固たるものにするためには、

多様な嗜好に対応できる観光メニューをより一層充実させること。

地元高齢者、退職者を経験と知恵を生かした有償ボランティアとして参画を得ること。

各観光拠点と旅行者をコーディネートする専門的な組織を構築すること。

地元行政（県、市町村）観光協会、ホテル、旅館等との提携を強化すること。

の諸課題を解決しながら活動を押し進める必要がある。

これらの諸課題については、本年度事業の活動の中で、既に解決への方向性は見えてきているものもあり、今後は地元行政、関係機関等との連携を強化し取り組んでいきたい。

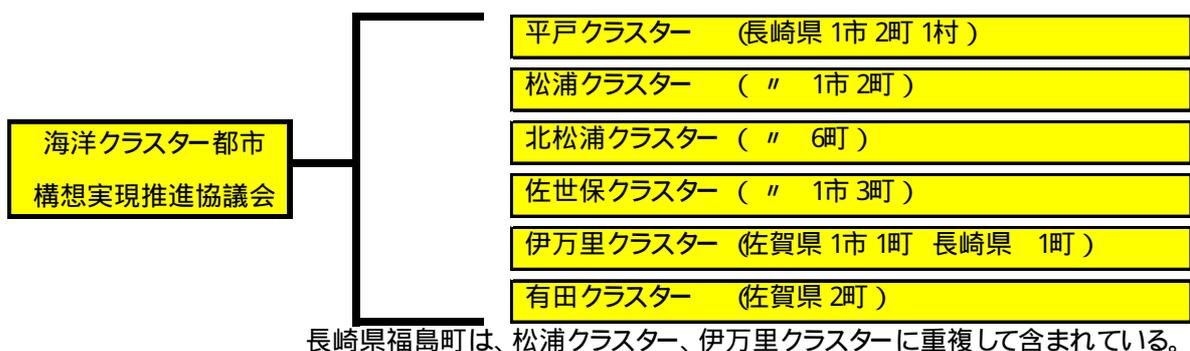
(資料編)

海洋クラスター都市構想実現推進協議会について

海洋クラスター構想を推進するために、海洋クラスター都市構想実現推進協議会が組織され、諸活動を行っている。

また、平成10年3月に策定された国の新全国総合開発計画においても、「参加と連携」に沿ったものであるとの評価を受け、「東シナ海に面する九州西岸北部の諸都市の都市間連携を推進する」と記述され、翌11年度に策定された第5次九州地方開発計画の中においても、「九州各地の個性を生かした魅力ある地域社会づくり」のモデルの一つとして「北松浦半島における海洋クラスター都市構想」が明記されたところである。

(海洋クラスター都市構想実現推進協議会の構成)



各クラスターの地域特性等について

平戸クラスター (海と宗教・歴史)

(単位：人、%)

	人口の推移 (国調ベース)			産業構造 (12年国調)		
	最大時 (ピーク時)	12国調	減少率	第1次	第2次	第3次
平戸市	(s30) 43,302	23,900	44.8	23.4	22.7	53.8
生月町	(s35) 11,506	7,934	31.0	28.9	25.8	45.3
田平町	(s30) 10,872	7,967	26.7	17.3	25.1	57.6
大島村	(s25) 5,615	1,785	68.2	39.5	16.3	44.2

地域全体としては、ピーク時より、若年層の流出、農林水産業の不振等を要因として、ほぼ人口が4割程度減少し、過疎化が進んでいる。

個別の市町村の特徴については、

平戸市

平戸藩の城下町として交易により栄え、南蛮、西洋文化発祥の地として、日本の近世を切り

開く礎となる大きな役割を果たし、異国情緒に恵まれ、美しい自然と歴史文化遺産を有している。

生月町

ピーク時より減少したとはいえ、大中型まき網漁業を主とする県下屈指の水産の町。江戸時代、捕鯨業で栄え、隠れキリシタンの島として、遺跡等も多い。西海国立公園に指定される風光明媚な島であり、平成3年に生月大橋が開通した。

田平町

本土と平戸を結ぶ県北交通の要衝。日本最西端の鉄道駅、全国でも珍しい昆虫自然園、カトリック教会など自然と歴史が豊かに息づく町。

大島村

玄界灘に浮かぶ海蝕断崖の自然美と磯釣りの宝庫。大自然に囲まれ詩情あふれる西海の温厚で人情豊かな島。

松浦クラスター（海と水産・エネルギー）

(単位：人、%)

	人口の推移(国調ベース)			産業構造(12年国調)		
	最大時(ピーク時)	12国調	減少率	第1次	第2次	第3次
松浦市	(s35) 44,057	22,082	49.9	14.0	30.0	55.9
鷹島町	(s35) 5,672	2,868	49.4	43.7	13.1	43.2
福島町	(s30) 11,648	3,420	70.6	16.3	38.8	44.9

地域全体としては、ピーク時からの人口減少は著しいが、近年、松浦市において、九州電力・電源開発の火力発電稼働が相次ぎ、また、伊万里湾に面して養殖漁業も盛んであり、西日本魚市場をはじめとする九州西方海域水産資源の集積の場所でもある。

個別の市町村の特徴については、

松浦市

長崎県の北端に位置し、落日と夕映え、漁火など美しい自然と詩情に富んだ市。農水産業の振興と調和のとれた工業開発を目指している。九州電力、電源開発による日本最大級の石炭専焼火力発電所が立地する、国内有数の電源地域。

鷹島町

元寇の役にちなむ多くの史跡とモンゴル村を中心とした観光地であるほか、昭和43年に玄海国立公園の指定を受ける。トラフグ、タイ、ハマチの養殖、葉たばこ生産と伝統ある石材は特産品として名高い。

福島町

全長225メートルの福島大橋で架橋され、玄海国立公園地域内に浮かぶ「つばきの島」である。内海には大小48の島々が点在する。民間LPG基地が立地している。

北松浦クラスター（海とスポーツ・福祉・生活支援）

（単位：人、％）

	人口の推移（国調ベース）			産業構造（12年国調）		
	最大時（ピーク時）	12国調	減少率	第1次	第2次	第3次
江迎町	(s30) 18,032	6,317	65.0	9.1	29.7	61.1
鹿町町	(s25) 20,405	5,548	72.8	18.8	29.3	51.9
小佐々町	(s35) 16,058	7,292	54.6	22.7	34.8	42.4
佐々町	(s35) 20,166	13,335	33.9	5.6	30.2	64.2
吉井町	(s35) 12,398	6,151	50.4	10.0	33.4	56.7
世知原町	(s35) 11,986	4,243	64.6	12.3	32.6	55.1

地域全体としては、炭坑の閉山が相次いだ昭和30年代～40年代から人口が激減し、現在に至っている。

個別の市町村の特徴については、

江迎町

公共下水道の整備、分譲住宅地の造成、白岳国民休養地を中心とした観光開発で過疎脱却を目指している。

鹿町町

西海国立公園北九十九島など、海と海岸線をいかした町づくりを推進。町には自然の豊かさがあふれている。

小佐々町

九州本土最西端の位置にあり、冷水岳からは北九十九島が一望できる。四季折々の花が、訪れる人を歓迎する花いっぱい町。

佐々町

長崎県下一の長流「佐々川」が町を貫通し、シロウオ漁は春の風物詩。豊かな自然環境や快適な生活環境が人々の暮らしに潤いを与え、佐世保市のベッドタウンとしての要素も加わり、人口は年々増加傾向にある。

吉井町

豊かな自然に囲まれた史跡とフルーツの町。歴史的遺産が数多く存在し、特産のイチゴとメロンが有名。

世知原町

長崎県北最高峰の国見山や佐々川が町内中央部を流れ、美しい自然景観に恵まれた全町公園化宣言の町。せちばる茶は全国的にも高品質で名高い。

北松浦半島体験型観光関係者リスト

氏名	所属団体(グループ名)	町村名
松浦 弘	日本ヒーリング科学研究所	平戸市
鮎川 学		"
野田 正一		"
橘 安幸樹(夫人)		"
大村 謙吾		"
木村 三重子		"
上田 通雄		"
高石 良雄	紙漉の里推進協議会	"
吉崎 暢達(夫人)	"	"
末永 盛(友子)	"	"
出口 敏(好子)	"	"
青木 豪(マツエ)	"	"
永田(夫人)		"
松石 利夫	シービューランチ(乗馬クラブ)	"
八木原 友子	わくわく平戸探検隊	"
松山 廣繁	奥平戸モデル村 志々伎漁協	"
山口 義弘	" ANJIN	"
福田 詮	" 福田酒造	"
中園 成生	生月町博物館「島の館」	生月町
久川 慶大	"	"
松永 一成	生月自然の会	"
松田 公夫	たびら昆虫自然園	田平町
西澤 正隆	"	"
千北 幸宏	"	"
早田 喜重	瀬戸の奇道	"
関東 皓	大島村商工会	大島村
井元 伸治	"	"
広久保 寿	江迎町史談会	江迎町
加椎 ルリ子	農産物直売所研究会	"
山下 芳生	本陣	"
吉田 俊道	(有機農業の推進)	"
森 幸一	鬼突竹炭工房	"
森 正毅	"	"
末吉 菊江	農産物直売所研究会	"
岡本 貞子	農産加工所 よもぎ会	"
岩井 久美子	醸すクラブ	"
武藤 春治	岩間商店(あゆ料理)	世知原町
山口 史	布工房 ご縁屋	"

北松浦半島体験型観光関係者リスト

氏名	所属団体(グループ名)	
西尾 健	紀行企画研究会	小佐々町
松原 年孝	循環型農業研究会	鹿町町
濱田 義文	北松浦クラスター	"
森山 政幸	"	佐々町
野田 公敏〔社長〕	(株)丸兄商社	有田町
野田 敏広〔担当〕	"	"
平松 保男	"	"
藤原 正章	プロジェクト“四駆”	江迎町
小野川 千昭	"	松浦市
川崎 雄輔	"	吉井町
山口 茂	"	平戸市
本山 敦士	"	鹿町町
板谷 國博〔組合長〕	(魚師体験)	鷹島町
〔代理〕 高橋 敏晴	"	"
深澤 清	クラフトツーリズム研究会	波佐見町
児玉 盛介	"	"
岡 照義		田平町
度島 登男	やすまんや	平戸市
小船 廣幸		松浦市
浦部 知之		平戸市
兪 華濤		福岡市
畑中 瑞子	波佐見クラフトツーリズム	波佐見町
川崎 正子	"	"
永田 豊久	"	"
川崎 勇喜	"	"
谷本 英雄(洋子)	"	"
米倉 芳定	集団“風” やすまんや	平戸市
米田 初義	紙漉の里	"
上田 増美		波佐見町
前川 芳徳		"
一瀬 豊		"
野田 知佐子	(株)丸兄商社	有田町
野田 香	"	"
浦田 勝喜	"	"
中倉 壮志朗	元気野菜の会	吉井町
石原 純	親和銀行 佐々支店 (支店長)	佐々町

北松浦半島体験型観光関係者リスト

氏名	所属団体(グループ名)	
梶村 壽登	鷹島町企画財政課 補佐	鷹島町
市瀬 輝昭	平戸市企画財政課長	平戸市
	補佐 田中義則、村田範保	平戸市
森田 茂則	生月町企画財政課長	生月町
金田 鎮雄	田平町企画振興課長	田平町
中村 幸一	” ” 係長	田平町
岡村 幸夫	大島村企画財政課長	大島村
池田 係長		”
小山 健二		”
川尻 武	鹿町町企画財政課	鹿町町
西 裕孝	吉井町	吉井町
立木 純	世知原町	世知原町
竹永 学	”	”
吉永 圭一	江迎町	江迎町
武尾 定義	江迎町経済課	”
細井 清樹	”	鹿町町

北松浦半島体験型観光運携事業による観光メニュー（試作）について

観光拠点名及び体験メニュー			若年層向け			中高年者向け			生徒、学生向け(総合学習)		
			該当	体験時間	特記事項	該当	体験時間	特記事項	該当	体験時間	特記事項
平戸クラスタ	紙漉の里	陶芸体験 紙漉き体験 蕎麦打ち体験						地元住民とのふれ合い			
	シービューランチ	乗馬			動物とのふれあい						
	ヒーリング科学研究所	流水マッサージ バッチフラワーレメディ ヒーリングストレッチ バランスセラピー									
	志々伎漁協	地引き網体験									社会科学系
	福田酒造	地酒製造見学									
	生月町「島の館」	捕鯨の歴史、隠れキリシタン歴史学習									社会科学系
	たびら昆虫自然園	昆虫の生態観察						家族向けに適當			自然科学系
瀬戸の寄り道	物販施設										
北松浦クラスタ	江迎町史談会	郷土歴史のインストラクター						地元住民とのふれ合い			社会科学系
	本陣	酒蔵コンサート、地酒製造見学									
	鬼突竹炭工房	竹炭製造						伝統技術の承継			社会科学系
	よもぎ会	農産加工場						地元住民とのふれ合い			
	布工房	布工芸									
松浦クラスタ	鷹島阿翁漁協	地引き網体験									社会科学系
	松浦体験型旅行協議会()	農業体験、漁業体験									社会科学系 自然科学系

松浦市、松浦市観光協会、松浦市商工会議所、松浦クラスタの独自取組として、平成14年1月に発足
注) 体験時間欄の は、半日以下で体験できるもの、 は1日体験も可能なもの。